

カセサート大学訪問記

2015年12月27日から30日の日程で、吉村幸則教授、前田照夫教授および河上准教授の3名がタイ王国のカセサート大学バンケンキャンパスを訪問しました。今回の訪問は前回（2015年1月22日）と同様に、「日本型（発）畜産・酪農技術開発センター（RCAS）」の業務の一環としてRCASとカセサート大学における国際共同研究の可能性を探ることが目的です。

28日の早朝より、まずカセサート大学の Faculty of Agriculture（写真1，2）を訪問しました。



写真1 カセサート大学農学部本館



写真2 カセサート大学畜産学科

RCAS およびカセサート大学スタッフ双方による挨拶の後、国際共同研究の推進に関する協議を会議室にて開始しました（写真3）。まず吉村教授が広島大学におけるRCASの活動に関する説明を行った後、カセサート大学の Chaiyapoom 博士からは、飼料中に添加される抗菌性飼料添加物の代替技術開発を中心とした国際共同研究の提案がなされました（写真6）。双方による議論は白熱し、協議は夕刻を過ぎても延々と続けました。



写真3 共同研究協議の様子

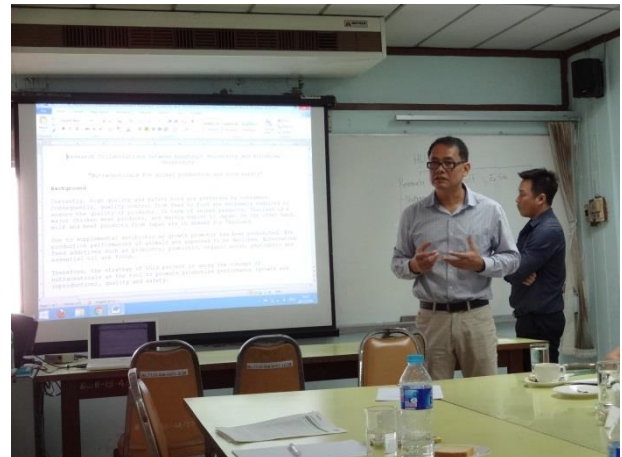


写真4 Chaiyapoom 博士

今回の協議では、広島大学およびカセサート大学の双方が日本学術振興会の二国間交流事業に応募して国際共同研究を今後も継続していくこと、およびアジア・アフリカ学術基盤形成型研究拠点形成事業への応募も検討すること等についての提案も行われ、将来的な国際共同研究の継続への足掛かりとなる貴重な議論を行うことが出来ました。

また 29 日には、タイ王国における食品・畜産産業の現状を知ることを目的として、CP-Meiji Co., Ltd. および CPF (Charoen Pokphand Foods) の鶏肉処理工場を視察しました。CP-Meiji Co., Ltd. はタイ王国に本社を有する CPF と日本の株式会社明治との合弁会社であり、工場長による説明の後、ヨーグルトの生産プラントを見学しました (写真5)。また CPF の鶏肉処理工場は世界でも有数の規模および危機管理施設を有しており、鶏肉処理からパッケージングに至る工場ラインを見学しました (写真6)。



写真5 CP-Meiji Co., Ltd にて



写真6 CPF の鶏肉処理工場にて

今回も前回と同様に短い滞在期間でしたが、カセサート大学の教員や学生の皆さんとの貴重な交流の機会を得ることが出来、また RCAS とカセサート大学との国際共同研究についてもより具体的な議論を進めることが出来ました。今後も二国間交流事業への応募等を通じて、研究および教育に関する双方向のコラボレーションを積極的に推進していきたいと考えています。



写真7 カセサート大学農学部長との面談